

マンション管理士“有志”

日本マンション管理株設立

立場上問われる透明性、情報収集法

マンション管理士の有志が結集してこのほど日本マンション管理株式会社(新目孝三社長)本社千葉原船橋市)へ資本金三百万円が誕生した。すでにマンション管理適正化法に基づき登録管理者として登録は完了している。今回のようにマンション管理士の有志が株式会社を立ち上げるきっかけとなったのは、資本意識が鮮明であるだけに、また一般的なリアプレース

金の額に見られるように新会社法の施行で事実上資本金の最低ラインが取り払われたことにもよる。これまでのマンション管理士の有志による管理組合運営をバックアップするた

め、NPO組織などと異なり、株式会社という利潤を追求し株主に配当を目的とした組織の確立という目的

を、株式会社と異なる透明性が求められることになり、また一般的なリアプレース

を、株式会社と異なる透明性が求められることになり、また一般的なリアプレース

を、株式会社と異なる透明性が求められることになり、また一般的なリアプレース

を含めた物件の受注活動において、マンション管理士というブランドを活用しての情報収集に、懸念を示す声も早くも出始めている。ただ、管理運営が滞っている、と見える。発揮する可能性が残されている、といえる。

を、株式会社と異なる透明性が求められることになり、また一般的なリアプレース